あると云ふ理由で、古くから人の注意する地點になつてゐる。されば、こそマッソンは直に此の首都に赴いて發掘を試み幾萬の古錢を發見して之れを印度會社の社長に引渡したやうな譯で、舊都の跡は此の有名なベグラーム "Bégram" 方面にあることは定つてゐる。此の發見と云ひ又此の特徴ある名稱と云ひ、共に舊都の位置を定めるに有力な資料であるが、猶ほ此處に法師の添へた注意事項中に見る二つの地形的特徴を加へることも出來る。此の特徴こそ實にカーピシー城市の位置を確定するに足るもので、それによると、首都の西北に當る河の南岸と東方三四里の地(法師の謂ふ「三四里」とは千乃至千二百米突に當るもので、此處では廓外東端から計つたものである。東端から二吉米突離れて舊市街西北の突角から計つたものではない。)にある山の南麓とに寺があつたものとなつてゐる。扨て、此の山と云ふのは矢張りベグラーム平地を見下すもので、其の最南端斜面には、倒壞した塔の傍に、迦膩色迦 Kanishka 王の人質になつた支那人が夏中住つてゐたと云ふ寺跡が殘つてゐる。又、東方約三吉米突の地點ではゴルバンド Ghorband 川とパンヂール Panjshîr 川とが